

## ■ 日銀追加利上げで米利下げのハードルは一段と下がる結果に…

日銀は、昨日（31日）まで行われていた金融政策決定会合において追加利上げの実施の決定を下した。その前日（30日）、東京時間のマーケットでは明らかに「追加利上げ見送り」を前提とした展開が見られていた。実際、30日の日本株市場では金利に敏感な不動産株が買われる一方で銀行株が売りに押され、後場に入ってからドル/円が強含みの展開となったことから自動車株を中心に輸出関連株などにも資金が向かっていたのである。

ところが、30日のNY時間帯に突入して以降、市場のムードはそれまでとは一変する。既知のとおり、一部のメディア経由で「日銀、追加利上げ検討」との報が伝わったためである。例によって、日銀が事前にリーク情報を提供したものと見られ、市場も前もって十分に警戒していたが、東京時間にはまだ伝わっていなかったため、逆に「今回は利上げ見送り」とのムードが広がりやすくなってしまったというのが実情である。

ただ、今回少々前倒しで（インフレ上昇傾向の継続を見越して）追加利上げの決定を下したことに對しては、実のところ合点の行くところもある。少なくとも言えることは、9月に米連邦公開準備理事会（FRB）と日銀がほぼ同時に政策の見直しを行うのは「かなりハードルが高い（胆力が必要）」と誰もが考えていたということである。

なにしろ、一方は「利下げ」でもう一方は「利上げ」という真逆の政策決定になるのである。市場に与えるインパクトは“片方だけ”の場合より遥かに大きいと考えられる。まして、9月の政策会合の日程は、米連邦公開市場委員会（FOMC）が先で日銀が数日後になる。そのため、市場の一部からは「日銀が9月に利上げするのは難しい」との声も聞かれていた。

少し見方を変えると、今回は日銀が先に追加利上げ実施の決定を下してくれたことにより、FRBにとっては9月利下げのハードルがそのぶん下がったということにもなる。その実、昨日のFOMC後の会見の場においてパウエルFRB議長は、あえて「利下げ時期は近づいている。9月に利下げか選択肢になる可能性がある」などと少々踏み込んだコメントを發した。



結果、形の上では日銀とFRBによる“合わせ技”のような格好となり、市場にはドル売り・円買いを進めやすいムードが一気に広がった。

左図に見る通り、テクニカル観点からもドル/円の基調は明らかに転換し、わかりやすく下抜けたと言える。なにせ、日足ロウソクが一目均衡表の日足「雲」をクリアに下抜ける格好となったのは昨年12月以来のことである。

特に注目したいのは、30日の日足ロウソクが上ヒゲを伴う長めの陰線になったことによって日足の遅行線が「雲」下限を下抜ける動きになったことと、翌31日の長い陰線が200日移動平均線（200日線）を一気に下抜けたことである。今後については89日移動平均線（89日線）や200日線が下向きに転じてくると想定され、そうなれば基調が転換したとのイメージはより鮮明なものとなるだろう。

むしろ、ドル/円の150円処というのは極めて重要な心理的節目であり、目先は下げ一服となりやすいことも事実。明日（2日）発表される7月の米雇用統計が余程弱めの結果であった場合はまた別だが、ひとまずは150円を挟んでの見合いがしばらく続くと思われ、個人的には見る。

一方、ユーロ/ドルについては「今後も200日線が下値サポートとして機能し続けるかどうか」が注視しておきたい目下最大のポイントとなる。

（08月01日 09:50）